令和６年度　横須賀美術館運営評価委員会

●横須賀美術館運営評価委員会（令和６年度第３回）
日時：令和７年（2025 年）３月 19 日（水）10 時 00 分～11 時 30 分
場所：横須賀美術館　ワークショップ室

１．出席者

委員会	委員長	小林　照夫	関東学院大学名誉教授
	委員	柏木　智雄	横浜美術館副館長
	委員	関口　洋輔	ラビスタ観音崎テラス支配人
	委員	三浦　匡	横須賀市立根岸小学校校長
	委員	倉田　睦	市民委員
	委員	前波　美雪	市民委員

館　長	文化スポーツ観光部長	倉林　孝英
事務局	美術館運営課長	岡本　剛彦
	学芸担当課長（学芸員）	冨田　康子
	美術館運営課総務係長	下田　哲央
	美術館運営課（学芸員主査）	工藤　香澄
	美術館運営課（学芸員主任）	日野原清水
	美術館運営課（総務係主任）	下田　優美

２．議事

令和７年度　横須賀美術館　事業計画書（案）について

３．その他

今後のスケジュールについて

会議録

【開会】
〔事務局・下田哲〕：定刻になりましたので、「令和６年度第３回横須賀美術館運営評価委員会」を開会いたします。
　本日は、お忙しい中、集まりいただき、誠にありがとうございます。私は、委員長に引き継ぐまで司会を担当させていただきます美術館運営課総務係の下田と申します。よろしくお願いいたします。

【１　あいさつ】
〔事務局・下田哲〕：最初に、事務局を代表しまして、館長・文化スポーツ観光部長の倉林より、ご挨拶させていただきます。

〔倉林館長〕：横須賀美術館長、文化スポーツ観光部長の倉林でございます。
　本日は、ご多忙の中、令和６年度第３回横須賀美術館運営評価委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。
　本日の委員会では、令和７年度の事業計画についてご議論いただき、決定いたします。
　横須賀美術館は、平成 19 年の開館以来、様々な展覧会やイベントを行ってまいりました。また、令和４年の市長部局に移管後には、新たな分野の取り組み、他館や民間企業との連携も積極的に実施してまいりました。
　現在開催中の企画展「サルバドール・ダリ」展も好評いただいており、４月６日まで開催予定ですが、昨日３月 18 日時点で目標観覧者数を超えております。
　令和７年度には、11 月から約 10 か月、開館後初となる休館を伴う工事を予定しています。この間、リニューアル後の開館に向けて、休館中も情報発信を積極的に行い、また、充電期間ということでしっかりと準備を重ね、より多くの方にアートに触れていただける、より親しみやすい横須賀美術館になりたいと考えております。
　令和９年度には、開館 20 周年を迎えます。様々な企画をこれから準備していくところですが、引き続き社会教育施設としての役割をしっかりと堅持しながら、さらにまちづくりや地域の活力の向上に資するように職員一同頑張っていきますので、本日の会議においても、委員の皆様から忌憚のないご意見の程、よろしくお願いいたします。

【２　議事　令和７年度　横須賀美術館　事業計画書（案）について】
〔事務局・下田哲〕：本日の出欠状況です。
　菊池委員より、欠席の旨、ご連絡いただいております。
　出席者は全６名中５名ですので、横須賀美術館運営評価委員会条例第４条第２項が定める「半数以上出席」の要件を満たすこととなり、本日の会議は成立となります。
　また、本日傍聴者を公募しましたが、どなたもいらっしゃいませんでした。
　それでは、さっそくお手元の次第に沿って、進行させていただきます。

〔事務局・下田哲〕：次に、本日の資料の確認をさせていただきます。
　机上にご用意させていただきましたものは、　次第、資料１「委員名簿」、資料２「令和７年度横須賀美術館事業計画書（案)」、資料３「運営評価委員会スケジュール」の４つです。不備等ございませんでしょうか。
　それでは、小林委員長、議事の進行をお願いいたします。

〔小林委員長〕：それでは、次第に沿って、議事を進めます。
議事（１）令和７年度横須賀美術館事業計画書（案）について、事務局から説明をお願いします。

〔事務局・下田哲〕：資料１「令和７年度横須賀美術館事業計画書（案)」についてご説明させていただきます。
　この計画書につきましては、新年度予算に計上している事業、また、予算には出てこない部分を含め、新年度開始に先立ち委員の皆様に令和７年度の計画を事前説明することにより、ご意見をいただき、事業の早期改善に役立て、かつ業務の進行管理を行っていきたいと考えております。
　計画書内の令和６年度の数値は全て１月末現在に統一させていただいておりますので、ご承知おきくださいますようお願いいたします。
　それでは、お手元の資料の２ページをお開きください。

〔事務局・下田哲〕：私からは、「Ｉ美術を通じた交流を促進する」のうち、「①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」の事業計画及び目標について、ご説明いたします。

「１展覧会の実施」についてです。
　当館は、改修工事を実施するため、令和７年 11 月から令和８年８月まで休館いたします。工事の具体的な内容については、16 ページで説明させていただきます。
　例年、１階の展示室では、５つの企画展と児童生徒造形作品展の６本を開催しています。しかし、令和７年度は、11 月から休館となりますので、例年より少なく、企画展として、成川美術館コレクション展、住友コレクション展、ブラスチラバ絵本原画展の３本を開催します。
　年間観覧者数の見込みは、記載のとおり、82,500 人としています。こちらは、展覧会ごとに、当館で開催した過去の同様の展覧会を参考に観覧者数を算出し、見込み観覧者数を記載しています。

　次に「２広報・集客促進事業」です。
　令和６年度と同じ６つの柱で記載しています。各項目の具体的な取り組みにつきましては記載にあるとおりです。
　３ページをご覧ください。今回、「②民間事業者との連携」に「民間事業者と連携した高

付加価値ツアーや美術館の利活用の推進」を追加しました。具体的には、大規模な国際会議前後の視察の受け入れや、海外富裕層の旅行の受け入れなど、美術館の新たな利活用の方法を推進していきたいと考えています。

「達成目標」について、達成すべき観覧者数として、82,500 人を目標としております。
先ほどもお伝えしたとおり、令和７年度は 11 月から改修に伴う休館を予定していることから、 82,500 人を４～10 月までの７か月間の目標とすることとしました。
４ページをご覧ください。「実施目標」は、令和６年度の計画と変更点はございません。

〔冨田担当課長〕：５ページをご覧ください。「② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる」について、ご説明いたします。
本項目は、ボランティア活動に関する評価項目です。

まず、事業計画です。当館のボランティア活動は、内容によって５つに分かれています。各活動を美術館が支援し、美術への親しみを増す一助とするとともに、ボランティア活動自体が市民の交流の場となることを目指します。活動のスケジュールは、掲載した表のとおりです。

「達成目標」は、「市民ボランティアの活動者数および協働事業への参加者数延べ 1,600 人」を掲げています。これは、活動を行うボランティアの数と、ボランティアが実施する事業への一般の参加者数を合わせた数字です。内訳は６ページの表をご覧ください。
令和６年度は、令和２年度以来、新型コロナ感染症の影響により中止または規模を縮小していたボランティア活動をすべて再開しました。加えて、小学生美術鑑賞会では、「対話鑑賞」の手法を本格的に取り入れ、児童 10 名に対して１名のボランティアを付けることとしました。これにより、ボランティア活動参加者数が大幅に増加しました。
令和７年度も同様の方向で活動を展開していく計画です。しかし、11 月から改修のための休館が予定されているため、「ギャラリートーク」や「みんなのアトリエ」の実施回数が少なくなります。したがって、令和６年度よりも 100 人減の 1,600 人を「達成目標」としました。

「実施目標」は、７ページのとおり、「市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる」「市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する」の２つです。
横須賀美術館のボランティアは、奉仕活動ではなく、美術館による社会教育の一環に位置づけられています。メンバーが、それぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そしてそれが地域の新しいコミュニティとなることを目指します。
令和７年度も、この「実施目標」達成に向け、活動の周知や、ボランティアによる主体的な活動の充実に努めていきます。

〔事務局・工藤〕：８ページをお開きください。「③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす」について、ご説明いたします。

まず、事業計画「１ 展覧会事業」の（１）企画展ですが、幅広い関心にこたえるため、特定のテーマによる展示を自主事業として、計３本を開催します。

４月には令和５、６年度に続き箱根と横須賀の連携企画第三弾として、「箱根・芦ノ湖　成川美術館コレクション展」、夏には泉屋博古館東京の所蔵品から「住友洋画コレクション」展および展示室の一部で「浦賀と住友重機械工業」展、秋には「ブラチスラバからやってきた！世界の絵本パレード」展を開催いたします。例年開催している「児童生徒造形作品展」は横須賀市文化会館での開催を予定しています。

９ページをご覧ください。（２）所蔵品展・谷内六郎≪週刊新潮表紙絵≫展について、令和７年度は地下の所蔵品展示室および谷内六郎館で年２回、それぞれテーマ性のある特集を組み、所蔵品を中心に紹介します。

第１期では、令和６年度に収蔵した作品による新収蔵作品展と、横須賀市内にある須藤オルガン工房についての特集を組みます。第２期所蔵品展では、横須賀美術館を設計し、昨年プリツカー賞を受賞した山本理顕による模型や資料の特別展示をいたします。

「２ 教育普及事業」について、休館に伴い、例年から開催回数に変更がございます。

10 ページをご覧ください。「達成目標」は、令和６年度と同様に「企画展の満足度 80%以上」を掲げています。ここでは令和６年度１月末までの数値をお示ししていますが、令和６年度の企画展満足度には、令和５年度末の３月 20 日から令和６年度の６月 18 日まで開催した 「鈴木敏夫とジブリ展」の会期を通じた満足度も含まれています。

アンケートは、従来の紙に加え、令和５年８月から神奈川県の電子申請システム e-kanagawa でも回答を受け付けています。展示を見た人が回答するよう、回答ページに接続する二次元コードはアンケートコーナー（本館１階、谷内六郎館）と地階の所蔵品展示室に掲示しています。

中段にある「実施目標」については、休館をふまえて回数を減らしていますが、内容についての変更はありません。

〔冨田担当課長〕：12 ページをご覧ください。「④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する」についてご説明いたします。

本項目は、主に中学生以下の子どもを念頭に置いた事業を評価するものです。

事業を大きく「１．学校との連携」と「２．子どもたちへの美術館教育」の２つに分け、全部で９項目実施します。

「達成目標」は、「中学生以下の年間観覧者数 10,000 人」としました。11 月からの休館とそれにより「児童生徒造形作品展」を横須賀市文化会館で行うことを考慮し、例年よ

り低い数値となっていますが、休館の影響をできる限り減らせるよう、横須賀市のすべての市立小学校、市立保育園で行う美術鑑賞会等を、すべて休館前に実施できるように調整を進めています。

「実施目標」は、13ページに記載のとおり、６項目あります。
「実施目標」では、子どもにも親しみやすい美術館であるかどうかという点を重視することとし、観覧者数を基準とした「達成目標」との違いをつけています。令和７年度も、教員や保護者のニーズを踏まえつつ、授業や家庭での活動とは異なる美術館ならではのプログラムを提供して、子どもたちが美術に親しむ機会を増やしていくよう努めます。

〔事務局・日野原〕:22ページをご覧ください。「⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。」についてご説明いたします。美術品の収集・保存・管理等に関する項目です。

事業計画については、１から５まで、例年と同じ設定です。
「５　美術品等取得基金」についてご説明します。現在、美術品購入の財源として、ふるさと納税を通じて横須賀市に寄せられる寄附金の一部を美術品等取得基金に割り当てています。そのため、美術品購入に充てられる財源は年度によって異なります。
令和７年度は、1,600 万円を予算計上しています。休館前に美術品評価委員会を実施するなど、作品購入を具体的に進める予定です。
作品収集のための寄附の呼びかけは企画展のポスター、チラシを使って行っております。今後も多くの寄附を受けられるよう、継続的にPRしていきます。
現在開催中の令和６年度第４期所蔵品展では、令和５年度に新たに収蔵した作品を展示しております。地下の所蔵品展示室に加え、谷内六郎館でも「ろうけつ染め」の作品を展示しており、その中で新たに当館の所蔵となった作品を紹介しています。
なお、令和６年度に収蔵した作品は、令和７年５月17日から始まる令和７年度第１期所蔵品展で展示する予定です。こちらもぜひご覧ください。

続きまして達成目標、実施目標についてです。こちらも例年と同じ設定です。
実施目標の「所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用される」に関連して、令和７年11月からの休館中の対応についてご説明します。
休館中は作品貸出を停止します。改修工事の対象に空調設備も含まれているため、作品の保存環境を安定させるために収蔵庫を閉める必要があるからです。しかしながら、貸出の依頼になるべくこたえるため、作品の貸出・返却時期の調整や貸出館での一時預かりなど調整を行っております。

〔事務局・下田哲〕:16ページをご覧ください。「⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する」についてです。

「事業計画」をご覧ください。

「１　運営業務」については、令和６年度の計画と大きな変更はございません。引き続き、利用者にとって心地よいサービス、空間でいられるよう、受託事業者との連携、施設・設備の維持管理をしっかり実施していきます。

「２　維持管理業務」についてです。向こう 15 年間から 20 年間、まとまった閉館期間を伴うような大掛かりな修繕を実施する必要がなく、今後の支出を抑えるとともに、収支への影響も少なくなる改修計画により、令和７年 11 月から令和８年８月にかけて、開館以来となる休館を伴う改修工事を実施予定です。工事箇所については、予定表の区分が「改修工事」となっているところをご覧ください。

この改修工事は、令和７年度及び令和８年度の継続事業として実施します。予定表に記載の金額は令和７年度分の工事請負費です。令和８年度分は合計で約４億２千８００万円となっており、今回の改修工事全体では約７億１千４００万円かかるということとなります。

「達成目標」と「実施目標」は 17 ページに記載のとおりです。

今回、初めての休館を伴う改修工事をいたします。事業者や市役所建築部門だけに任せることなく、美術館職員も進捗や質の管理にも関わっていきたいと考えています。

〔冨田担当課長〕:続いて 18 ページの「⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える」について、ご説明いたします。この項目は、障害をお持ちの方など、一般的に美術館に来ることが難しいと思われがちな方を念頭に置いた事業の評価項目です。

事業計画として、「福祉関連イベントの開催」「障害児者向けワークショップ「みんなのアトリエ」の開催」「触察図の制作と活用」「託児サービス」の４つを実施することとしています。

「達成目標」は、「福祉関連事業への参加者数延べ 210 人以上」です。各事業の目標値の内訳については、19 ページの表をご覧ください。

本項目は、事業の性格上、参加者数による評価が難しい項目ですが、従来の実績から妥当と見込まれる数字を目標値としています。また、休館に伴い、「みんなのアトリエ」が 11 月から３月までお休みとなりますので、その分、目標値を例年より低くしています。

「実施目標」は、３項目を設定しています。本項目の実施を通じて、美術館が健常者のためだけの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しめること、また年齢や状況に応じた楽しみ方があることを障害当事者にも、また周囲の方々にも広く伝えていきます。

休館中については、触察教材の調査、研究を積極的に行っていきたいと考えています。

〔事務局・下田哲〕: 次に 20 ページをご覧ください。「⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する」についてです。

達成目標について、11 月 以降に改修工事に伴う休館を行い、開館月数が例年の３分の

２程度となるため、直近２年間の平均値の 70%と設定しました。

　実施目標について、引き続き、今まで以上に職員全員が節電を意識しながら、事業に取り組んでいきたいと考えています。

〔事務局・下田哲〕：事務局からの説明は以上となります。

〔小林委員長〕：各項目の議論に入る前に、全体の中で、例年から特に変えた点、変わった点、力を入れている点など、補足があれば教えてください。

〔冨田担当課長〕：学芸関連は各項目に盛り込んでいますので、特段補足はございません。

〔事務局・下田哲〕：３ページの「民間事業者と連携した高付加価値ツアーや美術館の利活用の推進」について、令和６年度に試行で実施した事業が２、３程度ありました。実際に料金を徴収して行うものではなく、テストの意味合いが強いものでした。
　令和７年度は、館としてどのような受け入れができるか、例えばどのように料金を徴収するかなどの制度づくりや売り込みまでつなげていきたいと考えています。大規模な国際会議は数年先を見据えて動いているものですので、休館明けの令和８年度以降で受け入れができるように準備を進めていきたいと考えています。

〔小林委員長〕：それでは、委員の皆様、事務局から説明のありました事業計画案について、ご意見やご質問をお願いします。

〔小林委員長〕：まず、「①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」について、いかがですか。

〔関口委員〕：オンラインコンテンツ等の充実について、具体的にどのような YouTube 企画や SNS の活用をされているか、お聞かせいただけますでしょうか。

〔冨田担当課長〕：まず従来の取り組みについて、美術館のコンテンツの中心となるのは展覧会に関わることです。SNS における展覧会の告知、広報、例えば作家のインタビューなど展覧会への理解を深めていただけるような内容も機会があれば積極的に取り入れ、会期中に発信しています。展覧会を軸とした従来型の発信でフォロワーも一定数おりますので、方向性は維持していきたいと考えています。
　令和７年度について、休館中は軸である展覧会の開催がありませんが、情報発信を全くしないというわけではなく、まだ検討段階でありますが、例えば工事の様子の発信など、その期間を活用した、その期間ならではの発信をしたく、他のリニューアルで休館した館の取り組みの研究を行っているところです。

〔前波委員〕：インバウンド推進のための外国語情報発信の拡充について、発信は何語でされていますか。

〔岡本課長〕：基本的には英語です。例えば高付加価値ツアーにおいて、旅行代理店が作成し海外に発信するコンテンツがありますが、英語です。
　ミュージアム展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」内のコンテンツについても、日本語とまだ同じ量ではありませんが、英語の内容も用意しています。

〔前波委員〕：横須賀美術館のホームページも英語対応されていますか。

〔岡本課長〕：対応しています。

〔前波委員〕：東京都内の美術館に訪れると、インバウンドが進んでいると感じます。英語圏以外からの訪日客も多く見受けられるので、例えば中国語にも対応が進むとよいのではないかと思いました。

〔倉林館長〕：インバウンドについて、美術館に限らず横須賀市の取り組みを進めるなかでの話になりますが、間口を広げた施策はなかなか難しいということがわかってきております。
　そこでまず注力するところとしまして、米海軍横須賀基地の関係者の方がご家族ご友人を日本にお招きした際、横浜や鎌倉をご案内されることが多いということですので、そこで横須賀でも過ごしていただけるようにというところを令和７年度は考えています。
　また、みなとみらいにあるパシフィコ横浜は年間来場者が 400 万人を超えますが、国内外からパシフィコ横浜に来場された方に横須賀市にも足を運んでもらうにはどうしたらよいかというところを考えています。
　ターゲットを絞った取り組みというのを横須賀市の観光施策では行うところですので、美術館でもそうした取り組みを行っていければと思います。

〔小林委員長〕：周辺地域の魅力として、観音埼灯台やラビスタ観音崎テラスなどとあわせて、ぜひ旗山崎公園も紹介していっていただきたいと思います。

〔倉林館長〕：ヴェルニー公園にあるティボディエ邸という施設で、横須賀市内の様々な場所をデジタルマップや動画で紹介しています。デジタルマップでは旗山崎公園にも触れています。市内の様々な魅力をより広く知っていただきたいと考えています。

〔小林委員長〕：①について、他にございませんか。よろしいでしょうか。

〔小林委員長〕：それでは、「②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。」について、いかがですか。

〔前波委員〕：イベントやワークショップでボランティアの方にお世話になっていますが、楽しそうに活動されていらっしゃるのが印象に残っています。休館中は活動の予定がなくなってしまうのでしょうか。

〔冨田担当課長〕：休館中も活動は継続します。
「ギャラリートークボランティア」に関しては、もともとの活動にも研修が含まれていますが、休館中も研修で活動していただき、スキルアップの期間に充てていただきたいと考えています。
「プロジェクトボランティア」に関しては、美術館から地域に場所を移して、出張ボランティアを行うことを考えています。ボランティアの方自身が現在検討を進めているところですので、積極的に支援を行っていきたいと考えています。

〔関口委員〕：小学生とのつながりという点で１点情報共有いたします。
先日、走水小学校の児童から授業で作成した「ダリ展開催中」のポップをラビスタ観音崎テラスに持ち込みがあり、現在ラウンジで掲示しています。

〔岡本課長〕：走水小学校とは当館も関わりがあり、走水小学校が関東学院大学とコラボして商品化した「走水の水」の販売場所として当館を選んでいただき、ミュージアムショップで販売させていただきました。
今後も周辺の様々な施設とエリアで連携して取り組んでいきたいと考えています。

〔小林委員長〕：「市民感覚をもったボランティアと協働することにより」という部分について、どういった概念で書かれていますでしょうか。

〔冨田担当課長〕：当館のボランティア活動の始まりは、開館記念のアートイベントを市民の手で実施する、というところで、開館の前年の夏に広報よこすかで市民を公募したところから始まりました。そこでの参加者のこうしたい、こうしてみたいというアイデアが、現在の５つのボランティアにつながっています。
地域の中に新しい施設ができるときに、どういった形で市民との接点を持つかというのが美術館側としても手探りでしたので、こちらからの発信以外でのコミュニケーションの場として、まずはボランティアをスタートしました。
美術館という場を使って市民に交流していただく、その前段階として交流の場として認識していただく、やりたいこと学びたいことができる場として美術館を認識していただくというところからスタートしたものが今につながっていると考えています。
直接の回答ではないかもしれませんが、そうした方向性をこれからも展開、発展していきたいと考えています。

〔岡本課長〕：小学生の話に戻りますが、「実は美術館には素晴らしい図書室がある、無料で

使える」という視点で授業でポスターを描いて持ち込んでくれたことがありました。
　美術館ですので我々としては展覧会が中心ですが、子どもたちはそこではないところ、図書室に注目して、「図書室を取り上げることで美術館を知ってもらえると思った」と描いてくれました。公の施設のニーズを示したひとつの例だと思います。
　地域のニーズを知る、そしてプロモーションして持ち帰ってもらうというところがありますが、そういったものも「市民感覚」のひとつであり、続けていければと考えています。

〔小林委員長〕：②について、他にございませんか。よろしいでしょうか。

〔小林委員長〕：それでは、「③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。」について、いかがですか。

〔柏木委員〕：児童生徒造形作品展が別会場で実施ということは決定事項なのでしょうか。横須賀美術館の展覧会事業には含まれないのでしょうか、という点でお尋ねいたします。

〔冨田担当課長〕：児童生徒造形作品展は１月後半という時期で何十年も実施されてきた事業であり、当館の休館にあわせて開催時期をずらしてもらうということは難しいです。同じ時期に市内の別会場で実施するということは決定しているため、令和７年度は当館の展覧会事業に直接的には含めていません。
　しかしながら、横須賀市教育委員会と横須賀美術館とで開催する展示であり、展示の手法や広報については、美術館発信でも実施していきたく、教育委員会と調整を進めているところです。

〔小林委員長〕：「住友洋画コレクション―フランスと日本近代絵画名品選」の説明に「また展示室の一部で浦賀と住友重機械工業の歴史を振り返ります。」とあります。浦賀と住友を結び付けた展示というのは難しい部分があると思いますので、それぞれしっかりと分けて歴史を捉えて振り返っていただきたいという気持ちがあります。

〔冨田担当課長〕：その点は課題として認識しています。博物館や図書館にも協力していただき、住友重機械工業と浦賀が結びつく以前の部分をどのように取り上げるか、どこまで資料として展示できるかということの調整を進めております。

〔小林委員長〕：③について、他にございませんか。よろしいでしょうか。

〔小林委員長〕：それでは、「④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。」について、いかがですか。

〔三浦委員〕：「（１）中学生のための美術鑑賞教室の実施」に「夏季休業中の宿題にも活用できるよう」という文言がありますが、そろそろ「宿題」という言葉を使わないようにし

たほうがよいかなというところがあります。最近になって急に宿題をめぐる議論が活発化したというわけではありませんが、かつては夏休みの風物詩と思われていた時代もありましたが、最近は、主体的に自分の興味関心に取り組みましょうという動きに変わってきています。

夏休み中だからできること、美術の場合は本物に触れるという体験的なことのひとつとして美術館を選んでもらえるようにという視点を盛り込んでいただけると、「中学生の主体的な美術館賞をサポートします。」にもつながるのでよいと思います。

置き換える言葉としては、例えば「体験的な学習」や「体験的学習」がよいと思います。

〔倉林館長〕：表現は適切に直していきたいですので、そういった視点のご意見がありましたらいただければありがたいです。

〔前波委員〕：やさしい日本語は外国の方だけでなく、子どもや文章の理解に難しさのある方にもわかりやすいということで様々な美術館で取り入れられてきているところなのだと思います。

先日小学校低学年の児童と展覧会を観覧した際、関心があって解説を読もうとしたが難しくて諦めてしまったことがありました。

美術鑑賞会の対象が小学校６年生とありますが、やさしい日本語での解説を取り入れることで、低学年に広げていけるのではないかと思いました。

〔柏木委員〕：横浜美術館はリニューアル工事で３年程休館していた間、作品解説を学芸員が多数書きましたが、「やさにち」というツールを使用して難易度が低い解説を書くということに注力しました。C 判定以上のやさしさになるようにしました。解説はウェブサイトにも掲載しています。文化庁の補助金事業で行いました。

児童・生徒が美術館に来た際、美術館で面白い体験をしてもらい、美術館が快適な場所だと意識してもらうということが何よりも大事で非常に重要だと考えます。堅苦しい思いをして嫌だった、難しい解説が書いてあってつまらなかったということにならないようにするのが、大人になってからの美術館に対する認識に影響すると思いますので、リニューアル開館後も注力すべきところとして取り組んでいきたいと考えています。

〔岡本課長〕：美術館への関心を持ってもらう入口のアウトリーチ事業として、横須賀美術館では、毎年１回、市内全小中学校給食のメニューに谷内六郎さんが好んだメニューを採用してもらうということをしています。給食の前後では学芸員が出演するプロモーションビデオを放映し、食べた思い出が美術館につながるような工夫をしています。

〔小林委員長〕：学芸員実習の受け入れを継続してくださっていて、貴重な場ですので、感謝しています。学芸員になりたい人が増えていて、実習の場は減っていてという状況ですので、ぜひこれからも継続していっていただきたいと思います。

〔岡本課長〕：ぜひ継続していきたいと考えています。

〔小林委員長〕：④について、他にございませんか。よろしいでしょうか。

〔小林委員長〕：それでは、「⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。」について、いかがですか。

〔柏木委員〕：継続的に作品購入の予算がついているということは、戦略的に所蔵作品を増やしていけるということですので、嬉しいことだと思います。
　基金はふるさと納税の受け皿かと思いますが、市費からの支出はありますか。

〔岡本課長〕：ふるさと納税からと、美術館に設置している募金箱からです。市費からの支出はありません。

〔柏木委員〕：難しいとは思いますが、市費からの支出もあると素晴らしいと思います。横浜市の美術館に関する基金も、最初は市の財源からも投じられていましたが、ここ数年はそれがない状況です。財源をなるべく確保していけるように、館と市とが協力していく必要があると思います。

〔小林委員長〕：⑤について、他にございませんか。よろしいでしょうか。

〔小林委員長〕：それでは、「⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。」について、いかがですか。

〔柏木委員〕：令和７年度と令和８年度で改修工事をされるということですが、収蔵庫の増設について長期的に計画はありますでしょうか。

〔岡本課長〕：現時点ではありません。

〔柏木委員〕：購入予算がついて所蔵作品が増えていくというなかで収蔵庫が飽和状態になっていくというのはどこの美術館も課題になっていて、改修工事が解決の機会になっているところですが、横須賀美術館はそういった懸念はないでしょうか。

〔冨田担当課長〕：収蔵物は増えてきておりますので苦労しているところもありますが、開館してもうすぐ 20 周年ということで収蔵庫の拡大を積極的には進めにくい面もありますので、長期的な課題と認識しております。他館がどういった機会で増設を実現したか学びたいと考えています。

〔柏木委員〕：横浜美術館の事例ですと、所蔵作品の一部を展示していないと収蔵庫に所蔵

作品が収まりきらないという飽和している状況でしたが、大規模改修で美術館自体の増床はできなかったので、一部の部屋を収蔵庫に改修するということをしました。それで飽和状態が落ち着くかと思っていましたが、３年間の休館の間に大量の寄贈があるなど、検討が必要な状況は引き続いています。

美術館が活動を続けていく限りは引き続いていく課題で、作品の収集とも関係する核心的な課題ですので、どう解決できるのか、長期的な視点で取り組んでいくということが重要だと考えます。特別に予算がつくときでないとできることではないと思いますので、改修工事を機会ととらえて色々議論なさるのがよいと思います。

〔前波委員〕：美術館の休館中は広場やレストランも休止されるのでしょうか。

〔岡本課長〕：レストランとミュージアムショップについては、美術館休館中のうちの一部、レストランにも工事が入る期間は休業、それ以外の期間は営業という形で調整中です。広場でのイベントは現在検討中です。

〔小林委員長〕：⑥について、他にございませんか。よろしいでしょうか。

〔小林委員長〕：それでは、「⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。」について、いかがですか。

〔小林委員長〕：⑦について、ございませんか。よろしいでしょうか。

〔小林委員長〕：それでは、「⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。」について、いかがですか。

〔小林委員長〕：⑧について、ございませんか。よろしいでしょうか。

〔小林委員長〕：それでは、全体を通して、委員の皆様から何かございますか。

〔全委員〕：ありません。

〔小林委員長〕：それでは委員会の審議としては以上といたしまして、事務局にお返しします。

〔事務局・下田哲〕：事業計画書をご審議いただき、ありがとうございました。

【３　その他　今後のスケジュールについて】

〔小林委員長〕：次に、３その他「今後のスケジュールについて」、事務局から説明をお願いします。

〔事務局・下田哲〕：それでは、資料３「運営評価委員会スケジュール」をご覧ください。

まず、本日第３回会議では、令和７年度の事業計画書案について、ご確認いただきました。この会議で委員の皆様から頂戴したご意見を参考に、事業計画案をさらに詰めた上で、新年度には完成したものをご提示いたします。

また、令和６年度事業の評価については、新年度になってから事務局において一次評価を行った後に、委員の皆様に二次評価をお願いする予定です。新年度の第１回会議では、二次評価をもとに皆様に議論していただき、評価が決定した後に評価報告書を完成させるという流れになります。

第１回会議の日程については、改めて日程調整のご連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

今後のスケジュールについては、以上となります。

〔小林委員長〕：今後のスケジュールについて、委員の皆様から何かありますでしょうか。

〔全委員〕：ありません。

〔小林委員長〕：最後に、事務局から何かありますか。

〔倉林館長〕：本日は様々なご意見をいただきありがとうございました。参考にさせていただき、よりよい美術館を目指してまいります。

【閉会】